



Science Cafe
サイエンスカフェ

難病を抱え ながら生きる

～不動の身体からの経験知、～

運動神経が冒され、筋肉が動かなくなっていく病気であるALS患者のみなさんをゲストに迎え、難病を抱えて生きる社会作りについて話しあいます。医療や看護、工学的サポートを視野に入れながら生の意味や生活支援の意義、技術の役割などについて、人文・社会科学および工学の観点から市民の皆さんと一緒に話をする「サイエンスカフェ」です。

今回のサイエンスカフェでは、ALS患者の方への支援と研究を続けている研究者・院生が、話し合いのためのお手伝いをさせていただきます。「質問してみたいけどちょっと抵抗がある」、「言葉の意味がわからない」…そんなときは是非お声をおかけください。患者、研究者、市民参加者のみなさんが、それぞれの考え、思いを伝え合えるような場を目指します。

ゲストスピーカー

- 和中勝三** (ALS協会近畿ブロック会長：『生きる力』執筆者)
- 久住純司** (ALS患者：ALS-ITP 協同研究者／IT サポーター)
- 林 静哉** (ALS患者：ALS-ITP 協同研究者)
- 船後靖彦** (ALS患者：『しあわせの王様』執筆者)

ファシリテーター (案内役)

- 水月昭道** (立命館大学人間科学研究所研究員／僧侶)
- 松原洋子** (立命館大学大学院先端総合学術研究科 教授)
- 福田茉莉** (岡山大学大学院 大学院生)
- 日高友郎** (立命館大学大学院 大学院生)

主催：立命館大学人間科学研究所

共催：立命館大学グローバルCOEプログラム「生存学」創成拠点・文部科学省教育GP 湘南工科大学「社会と工学をつなぐ技術活用力の育成」

日時

2008年11月22日(土曜日) 19時～21時

会場

和歌山ビッグ愛

<http://www.wakayamasposhin.or.jp/big-ai.html>

〒640-8319 和歌山県和歌山市手平2丁目1-2
電話：073-435-5200 FAX：073-435-5201

定員

10名程度 *軽食をご用意いたします(サンドイッチ、飲み物)

申し込み
方法

参加希望の方は、住所、氏名、年齢、職業、電話番号、E-mail アドレス、参加してどのようなことを話し合いたいかなどをご記入の上、下記のE-mail アドレスにメールか、FAXをお送りください。折り返し参加のご案内をいたします。なお、人数等の関係上、参加いただけない場合もありますのでご了承ください。

立命館大学人間科学研究所事務局 担当：野村
TEL：075-465-8358 FAX：075-465-8245 E-mail：ningen@st.ritsume.ac.jp

入場
無料

ALS について

運動をつかさどる脳のニューロンの変性によって、徐々に、しかし急速に運動機能を喪失していく神経難病です。日本には約7,000人の患者がいますが、根治療法はまだ見つかっていません。ALSを発症しても、患者の意識や思考は正常なまま保たれます。こうしたことから、わずかに残った指先や、ほぼ運動機能を使って、本を執筆・出版したり、ホームページを作成するなどの活動を自ら行っている方が知られています。

サイエンスカフェについて

気さくに、コーヒーでも飲みながら…というコンセプトで行われる、新しい「科学」と「市民」の繋がりです。講演会などと違って、少人数の環境の中でゲストの方と語り合い、皆さんで作りに上げていく場です。

ALS-ITP について

ALS-ITPは患者と研究者が一緒になって、患者の「生」を支えるための制度作りや、支援技術の開発などに取り組むプロジェクトです。「病い」や「障害」を持ちながら生きていく、ということはどういうことなのか。ALS-ITPでは実際の支援から、理論的な検討まで含めた、包括的な視点から活動を続けていきます。



当サイエンスカフェについての情報は、
http://www.ritsume.ac.jp/acd/re/k-rsc/hs/kenkyu_2004/cafe.html にもございます。